

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：32620

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K15887

研究課題名(和文)文化に調和した看護ケアを実現するための文化的概念モデルの構築

研究課題名(英文)Development of a Conceptual Model Related to Care for Foreign Patients with Different Cultural Backgrounds

研究代表者

寺岡 三左子(Teraoka, Misako)

順天堂大学・医療看護学部・准教授

研究者番号：30449061

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：文化を考慮した個別的な看護ケアの提供を目指し、日本における「異文化を背景にもつ患者への関わり」の概念モデルを創出した。本概念の先行要因は、外国人患者と看護師の両者の認識には文化的な隔たりであり、これによって価値観の衝突や看護上の困難が生じていた。本概念の核となる構成要素は【個々の文化的価値観への注目と配慮】であった。【個々の文化的価値観への注目と配慮】のためには、【言葉の壁を超え患者に向き合う姿勢】が大切であり、【日本の医療慣習に対する患者の違和感への気づき】が不可欠であることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文化・生活習慣の違いによるケア提供の困難さ・自信のなさにより、日本の看護師が外国人患者との関わりを回避する行動がみられる現象が報告されていた。グローバル化が著しい本邦において、全人的な看護ケアの必要性は高くなるが、多文化が浸透している国々と比較して、日本では文化に調和した看護ケアとはどのようなものであるか明確になっておらず、方法論も確立されていなかった。本研究の成果は、多文化に調和した看護ケアの確立と実践を目的に、看護に内在する文化的概念とその概念構造を『外国人患者』の立場から明らかにした。本研究の成果は、臨床での実践モデルの基礎資料として有用であり、看護師教育につながる成果であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study aims to develop a conceptual model related to care for patients with different cultural backgrounds in Japan as a basis for providing individualized nursing care in consideration of culture.

The conclusion is: there were cultural differences between foreign patients' and nurses' recognition. As this had led to the above-mentioned conflicts due to different senses of values and difficulties in nursing practice, their recognition was used as an antecedent factor to define the concept of care for patients with different cultural backgrounds. This concept comprised 4 factors, and the core was <paying attention and understanding individual patients' senses of cultural values >. In this respect, <overcoming language-related barriers to face patients> was important, and <observing customs in Japan's medical services from patients' viewpoint> was indispensable.

研究分野：看護学

キーワード：異文化看護 文化ケア cultural competence cultural congruent care 外国人患者 transcultural nursing

## 1. 研究開始当初の背景

法務省の統計によると、在留外国人数は増加の一途を辿っている。日本における外国人数の増加にともない、医療機関を受診する外国人も増加傾向にある。

看護師は、国籍、人種・民族、宗教、信条等の性質にかかわらず、対象となる人々に平等に看護を提供することが求められる。また、看護の対象者は、様々な文化的価値観やそれに伴う生活様式を尊重した看護を受ける権利を有するが、工藤(2008)は、看護師がとらえる『『全人的な人間』は身体・精神・社会という言葉で説明されるが、とりわけ社会的側面を含み込む言葉の中身はブラックボックスとなっている』と述べており、社会的側面である文化を考慮した看護ケアは、曖昧なままであることが推察された。さらに、わが国の看護基礎教育においては、人々の文化を考慮した看護ケアについての学習は十分であるとは言い難い。テキストには、文化、民族性、自文化中心主義(ethnocentrism)などの記述はあるが、それらの要素がアセスメントや患者教育の場面、実際の看護ケアの場面でどのように影響するかなど、看護実践へのつながりなる枠組みを提供するような記述にはなっていない。そして、看護技術の方法に関する記述内容においても、対象者の文化に関連した内容はほとんど記述されていない。わが国においては、自分とは異なる文化をもつ看護の対象者への適切な看護の提供に必要とされる知識や技術、態度を学習する機会は限られているという現状がある(安達ら, 2009; 大野, 2007)。

先行研究では、外国人のような異文化を背景にもつ患者への看護ケアについて日本の看護師は、自信のなさ、困難さを感じ、患者との関わりを回避する行動が報告されている。しかし、こうした患者への看護ケアに関する枠組みが日本では確立されていない上、多民族・多言語社会の中から生まれた国外の概念モデルは、日本での活用が難しい。そこで、文化に調和した看護を実現するための文化的概念モデル創出を試みることにした。

## 2. 研究の目的

本研究は、文化に調和した看護の確立を目指し、外国人患者の立場から、日本における「異文化を背景にもつ患者への関わり」の概念モデルを創出することが目的である。

## 3. 研究の方法

本研究は、Rodgers(1993)の概念分析と Shwartz-Barcott&Kim(1986)の概念開発プロセスの考えに基づいて実施した。はじめに、看護学領域の文献検討にて観察対象となる概念の分析を行った。この段階では、次のステップで行うインタビューを念頭におき、文献から看護における文化の概念の具体的内容を記述した。次に、グループインタビューにて外国人患者が日本での受診行動をとる実感した異文化体験の様相を明らかにした。さらに、外国人患者と関わる機会の多い看護師を対象に無記名自記式質問紙による調査を行い、外国人患者との関わりの中で看護師がとらえた異文化の様相を明らかにした。これらの成果を統合し、概念モデルを創出した。(図1)

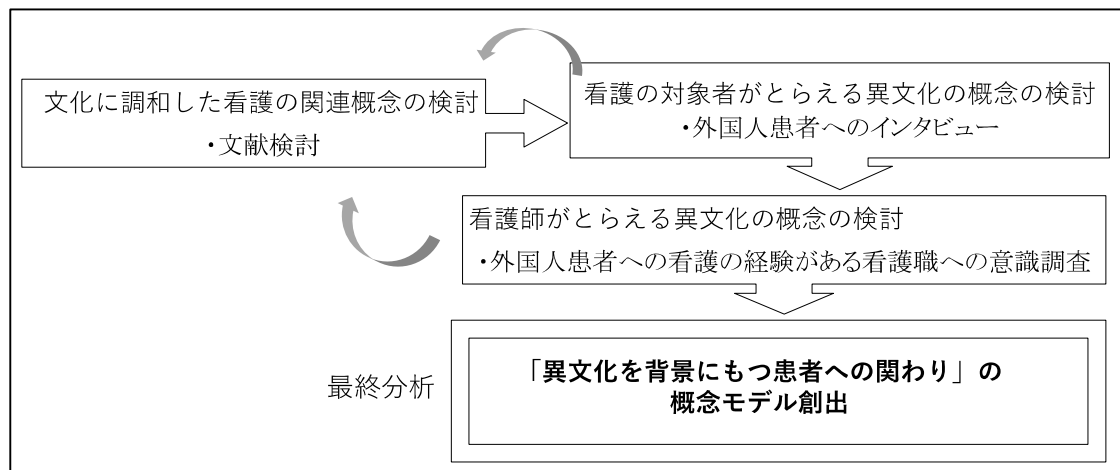


図1. 本研究の枠組み

## 4. 研究成果

文献に示された文化的介入の内容から、看護における文化の視点として、言語、独自の伝統的慣習、音楽・ダンス、生活地域の風習に基づく価値観、コミュニティの場、宗教、家族・医療従事者との関係性、疾患、職業、食習慣などが含まれることが明らかとなった。これらの文化的視点を基に15ヶ国22名の在日外国人にグループインタビューを実施した結果彼らは、言葉の壁、受診システムの壁に加え、先入観の壁に遭遇していることが明らかとなった。とりわけ、先入観の壁は、患者 看護師間の援助的人間関係を阻むだけでなく、文化的価値観をもつ個としての患

者の存在が尊重されないことを意味すると推察された。また、彼らは、自身の文化的背景が注目されないことを実感しており、暗黙の了解を感じとりながら日本の病院環境への適応行動をとっていたことが明らかとなった。

看護師への調査では、45施設より研究協力の承諾が得られ、1253名へ質問紙を送付し、541名の返送が得られた(回収率 43.2%)。外国人患者への看護で、文化や価値観の違いからケアが難しかったことを問う自由記述の項目では、280件の記述があった。それらは、【言葉による意思疎通が不十分】【生活習慣が異なる】【病院のルールを守れない】【宗教上の習慣が優先される】【出産・育児の慣習が異なる】【治療に対する理解が困難】【疼痛耐性が低い】【自己主張が強い】【感情表現が強烈】であった。外国人患者への看護において配慮していることをたずねた項目では、464件の記述があり、それらは、【意思疎通をはかるための工夫】【文化的背景の理解と配慮】【言葉の壁を超えて患者を理解する姿勢】【安心できる療養環境づくり】【コミュニケーション手段の選択】【日本人患者と同様の関わり】であった。本調査では、言葉の壁を超えて患者を理解しようとする看護師の姿勢と具体的な関わりが浮き彫りとなった。

## 5. 結論

外国人患者と看護師の両者の認識には文化的な隔たりがあり、これによって価値観の衝突や看護上の困難が生じていることから、両者の認識を「異文化を背景にもつ患者への関わり」の概念の先行要因とした。本概念は4つの要素で構成され、核となる構成要素は【個々の文化的価値観への注目と配慮】であった。【個々の文化的価値観への注目と配慮】のためには、【言葉の壁を超え患者に向き合う姿勢】が大切であり、【日本の医療慣習に対する患者の違和感への気づき】が不可欠である。また、日常生活援助の場面だけでなく、【診療場面における看護師の主体的な介入】は、【言葉の壁を超え患者に向き合う姿勢】として【個々の文化的価値観への注目と配慮】へとつながることが示された。(図2参照)

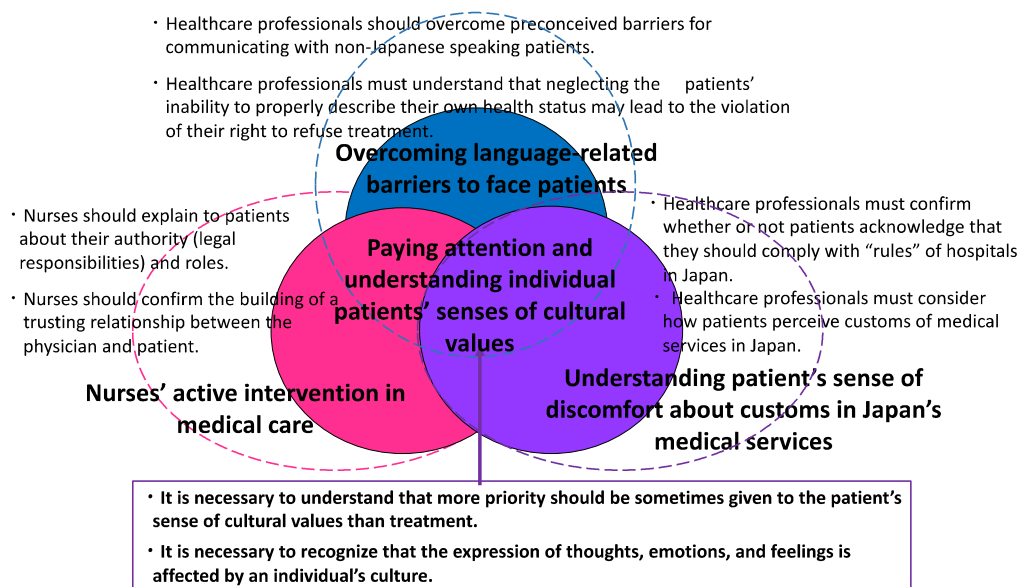


図 2. Conceptual Model Related to Care for Foreign Patients with Different Cultural Backgrounds

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 寺岡三左子, 村中陽子	4. 巻 37
2. 論文標題 在日外国人が実感した日本の医療における異文化体験の様相	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本看護科学学会誌	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.37.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Misako Teraoka, Yoko Muranaka
2. 発表標題 Development of a conceptual model related to care for foreign patients with different cultural backgrounds in Japan
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scalars 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Misako Teraoka, Yoko Muranaka
2. 発表標題 Japanese nurses' recognition of the care of patients from different cultural backgrounds
3. 学会等名 TNMC&WANS International Nursing Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----